

刈萱城(別名無)(指定無)(長崎県松浦市星鹿町岳崎免)(星鹿城山)

星鹿城山に刈萱(かるかや)城が築かれたのは建久2年(1191年)。源頼朝によりこの地に派遣された加藤左衛門重氏はその城主でした。その後紀州の高野山へうつってしまった加藤左衛門重氏ですが、城の本丸の輪郭は現在もまだ残されています。歴史の流れに思いを馳せながら、散策を楽しむのに最適なスポットです。

「Find Travel」による

加藤左衛門重氏は、もと平家方の大将でしたが、平家が戦いにやぶれた時、源氏に降り、源頼朝に仕えました。

重氏には千里姫という美しい側室がおり、世継ぎとして生まれた子供は、千里姫の子供、石童丸でした。これが正室のねたみをかき、ある夜、千里姫の身の危険を感じて身代わりとなって寝ていた侍女が、とうとう刀で刺されてしまいました。

重氏は心を痛めた末、ある夜とうとう城を捨て、行方知れずとなりました。

石童丸は成長すると父を慕う気持ちが強くなり、風の便りに重氏のことを聞いていた母の千里姫と一緒に、和歌山の高野山まで会いに行くことにしました。

千里姫は長旅の疲れと持病のため、重氏に会えないまま高野山の麓の宿屋で亡くなりました。石童丸は、父上に間違いないのに父とは名のらない「刈萱童心」という僧の弟子となり、一生を送ったそうです。

「松浦の民話」サイトによる

